



看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学大学院看護学研究科附属
看護実践研究指導センター

Center for Education and Research in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing, Chiba University

センターの機能と各事業の位置づけ



千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターは、昭和57年4月に、調査研究、専門的研修等必要な専門的業務を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として設置されました。設置以来、30年以上にわたり、プロジェクト研究、研修事業等の実施を通して、看護学教育の質の向上に資する事業を担っています。

当センターは、全国の看護系大学の教育の質向上のための看護学教育研究共同利用拠点(平成22年度認定、平成26年度再認定)として、研究・研修・情報集約と発信および看護系大学の連携の推進を行っています。その一環としての各事業においては、センター教員が看護システム管理学専攻教員との兼任教員として、現職の看護管理者の力量開発に従事し、また学部教育の一部を担っているという特徴を活かし、各看護系大学との協働の立場で企画・運営・評価を行っています。

平成23年度から、「看護学教育におけるFDマザーマップ開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」を行い、教員個人および教育研究組織の能力開発のための枠組みの開発および活用のための支援を行い、これまでに159大学の先生方に活用されました。平成27年度は最終年度として、能力開発のツールとしてFDコンテンツ20件の開発に取り組み、成果報告会を行いました。

また、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の改革の方向性の手がかりを得られるように看護学教育ワークショップを毎年実施しており、今年度は「10年後を見据えた看護学教育の取り組み～臨地実習の質保証に焦点をあてて～」を行いました。実習の質に関しては、看護系大学が地域の保健医療機関と連携して教育の質を向上させるように、看護学教育指導者研修では病院に限らず、訪問看護ステーション、行政機関等広範な実習指導者を対象に行っています。平成27年度から新たに、文部科学省委託事業「学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標の達成状況の検証・評価方法の開発」に取り組み、効果的・効率的な評価方法を開発しています。

さらに看護職の生涯学習支援として、看護管理者研修、国公立大学病院副看護部長研修、国の重要な健康問題の一つである乳がんに関し、認定看護師教育課程(乳がん看護)を開講しています。

平成28年以降、看護系大学の状況、社会的要請に即して事業の再構築に取り組み、教育の継続的質改善プロジェクトを開始します(平成30年度)ので、今後どうぞよろしくお願い致します。

平成28年以降、看護系大学の状況、社会的要請に即して事業の再構築に取り組み、教育の継続的質改善プロジェクトを開始します(平成30年度)ので、今後どうぞよろしくお願い致します。



看護学教育ワークショップ

平成27年10月28日(水)～30日(金)、平成27年度看護学教育ワークショップ「10年後を見据えた看護学教育の質改善の取り組み～臨地実習の質保証に焦点をあてて～」を開催し、全国の看護系大学より講演の部56名、全日程64名の参加者をお迎えしました。

本ワークショップでは、1日目の講演の部では基調講演「人口問題から10年後の課題と展望」、特別講演「臨地実習の質保証に向けた新たな取り組み」から学び、2日目は自組織の組織分析のためのワークショップFDマザーマップの組織的な活用について学んだ後にグループワークを行い、現状分析、課題の抽出、課題解決のための取り組みについて検討しました。3日目は各グループの成果発表と全体討議を通じて、各大学様々な立場から活発な意見交換が行われ、盛会のうちに会を閉会しました。



▲けやき会館会場

●基調講演「人口問題から読み解く10年後の課題と展望」



▲西村周三氏

講師には、医療経済研究機構所長(一般財団法人医療経済研究・社会保険協会)、国立社会保障・人口問題研究所名誉所長の西村周三氏をお迎えし、京都大学副学長(教育担当)のご経験も踏まえた、看護系大学の教育の質改善のために留意すべき10年後の課題と展望について人口問題から提言いただきました。高齢者が首都圏で激増(医療・介護の余力の地域格差)、家族・世帯の変化、病院役割の変化等に対して「健康」常識への挑戦、まちづくりと地域包括ケア、働き方の革命について提唱され、生活と医療そして看護職を含めたそこで働く人々の生活も分断しない対策について、先駆的事例を提示してお話いただきました。

●特別講演「看護学教育における臨床教育の質保証:質と安全教育(QSEN)」



▲Barnsteiner氏

講師には、看護における質と安全教育(QSEN: Quality and Safty Education in Nursing)のリーダーのおひとりの、Jane Barnsteiner, PhD, RN, FAAN ペンシルバニア大学看護学部名誉教授を招聘しました。初来日のバーンスタイナー氏は、QSENの目的は看護職が働く医療制度の質と安全を持続的に向上させるための6つのコンピテンシーを身につけた看護職を教育することであり、2006年以降全米の看護学部の質と安全教育の実態評価を実施し、認証基準への適用を進めてきたと話されました。臨地実習においても、初学者から患者・家族中心の医療システム環境に責任を持つ教育の必要性和、教員としての意志、考え方、実行について提言されました。

●「自組織の組織分析のためのWS」と「全体討議」



▲全体討議

「自組織の組織分析のためのワークショップ」では、九州大学基幹教育院 川島啓二教授に、FDマザーマップを組織分析にどのように活用できるかについてご講演いただきました。また、福岡大学医学部看護学科の宗正みゆき准教授に、FDマザーマップを活用した組織分析の実例をご紹介いただきました。福岡大学では、「基盤マップ」「教育マップ」のチェックシートを使って各教員が能力の到達度を自己評価した結果を集計し、FD課題の明確化に役立てておられました。当センターの和住淑子教授からは、組織の外部者の立場から集計結果を見た場合、どのような教員組織の特徴とFD課題を読み取ることができるかについてフィードバックし、体系的なFDの展開に向けたマザーマップ活用の可能性と、当センターが担うべきコンサルテーションの内容についてお話ししました。これらを踏まえ、全体討議が行われました。

FD 成果報告会

平成27年11月23日、FD成果報告会「今こそ教員組織の教育力を高める～FDマザーマップの自律的な展開方法～」を開催し、全国より61名の参加者をお迎えしました。本センターは平成23年度から「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」に取り組んでおり、本報告会ではプロジェクトの成果であるFDコンテンツ開発について報告しました。FDコンテンツはテーマごとに他大学の教員と協力して開発しており、今回は開発した中から7つのコンテンツを紹介しました。ご参加いただいた皆様からは「FDコンテンツを活用したい」、「FDコンテンツについてもっと詳しく知りたい」、「ハラスメントやマネジメントレベルの教員へのコンテンツを開発してほしい」等の貴重なご意見を多数頂戴しました。



本プロジェクトは平成27年度で終了となりますが、本センターは看護学教育研究共同利用拠点として全国の看護系大学の皆様と共に、今後もFD活動を推進して参ります。

※発表したFDコンテンツは準備が整い次第FDプランニング支援データベース(URL:<http://fd.np-portal.com/>)に掲載します。

●FD成果報告会に参加して

名城大学 人間健康学部看護学科 松下聖子



11月23日、東京で開催されたFDコンテンツ開発の成果報告会では、7つのコンテンツが報告されました。コンテンツは、ケースメソッドやビデオ教材など活用方法も様々で、具体的にイメージしながら自らの教育活動の振り返りができます。さらに、マザーマップと対応していることから、自分が現在どの位置にいるのか、今後どうしていけば良いのか、振り返りと共に理解していくこともできます。私は、すぐにでも活用したいと思いました。学生の背景や価値観が多様化する中、予測困難な社会に対応できる看護職を育てるためにも、今回報告されたFDコンテンツを活用し、教員としての力を充実させ、大学教育の質的転換に対応できるよう努力していきたいと思えます。

●FDコンテンツ開発を経験して

東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 高島尚美



本コンテンツの開発は、まずひとりの教員として、日々の学生との関わりの中での対応に困っていることを吐露するところから始まった。その内容は、提出期限が過ぎたレポートを受け取ってしまいモヤモヤ感が残ったこと、試験後の答案を返却するのかしいのか？など日常的であり、しかし集まった先生方によっても意見が分かれ、学生の身分にも関わり、場合によっては組織的問題に発展しかねないことでもあった。コンテンツは、状況の記述から始め、「実際にあなたならどうしますか？」「その理由は？」と根拠を意識化していくリフレクションによって自分自身の教育観や組織としての整理の必要性が見えてくるのが分かった。この開発プロセスそのものが自分自身のFDとなり有効だったので、教員間で自由に日常的活動の困難ごとを素材にしてディスカッションするために、是非ご活用いただきたい。また、適切なファシリテーターの必要も実感したため、温かい雰囲気でご支援いただいた看護実践研究指導センターの先生方に感謝する次第である。

●FDコンテンツ開発に携わった経験をとおして

東京女子医科大学 看護学部 飯岡由紀子



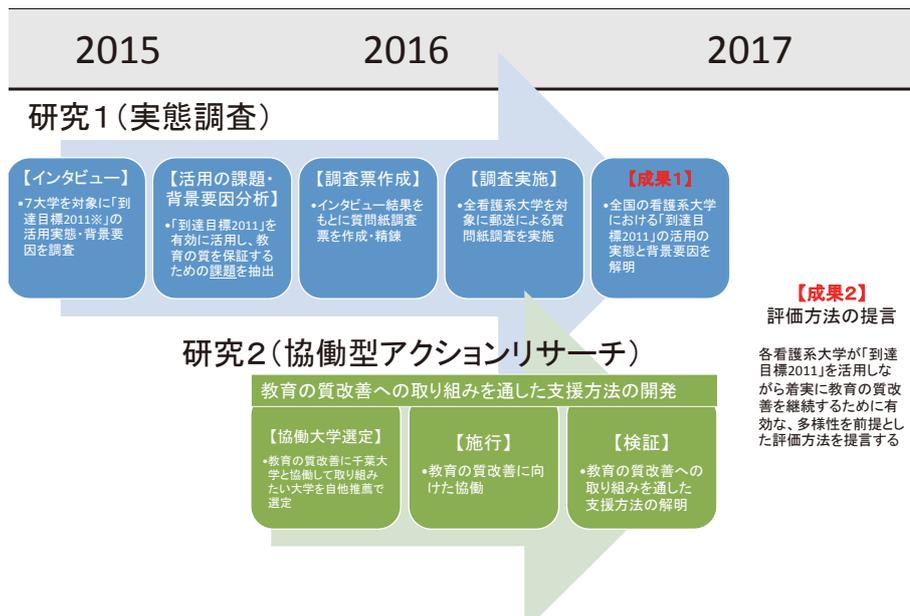
FDマザーマップを基盤としたFDコンテンツ開発に携わりました。このプロセスは、看護教育における教育観や倫理観について深く考え、多くの論議を交わす、楽しい経験でした。FD成果報告会では、臨地実習における合理的配慮に関するFDコンテンツを報告しました。看護教員は、実習指導で精神疾患や発達障害のある学生への対応に苦慮し、不安や葛藤を抱えていることが少なくありません。しかし、現状ではそれらの対応を組織的支援へと発展するまでには至っていません。このような現状の中、合理的配慮に関するFDを行うことは、組織に変化をもたらすことにつながると考え、コンテンツを開発しました。この経験から、目の前にある課題がFDとして発展し、組織変革の契機になるというFDのもつ力を改めて感じました。FDは目的や展開の仕方でも多様な発展をもたらします。自大学の状況に応じてFDコンテンツをアレンジし、ご活用していただきたいと思います。FDコンテンツ開発プロセスは、大変貴重で実り多い経験でした。このような好機をいただきましたことに深謝いたします。

大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業

本センターは平成27年度より文部科学省委託事業「学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標の達成状況の検証・評価方法の開発」プロジェクトに取り組みます。

本調査研究は、各看護系大学が「学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標（到達目標2011）」を活用しながら着実に教育の質改善を継続するために有効な、多様性を前提とした評価方法の提言をめざすものです。本調査研究は、研究1、2で構成され、全国の看護系大学における到達目標2011の活用の実態

と背景要因の解明、多様な特性を持つ看護系大学における到達目標2011の活用方法の提言の2つの課題に取り組みます。研究は、2015年度～2017年度の3年間で実施します。



活動報告

本センターは看護学教育研究共同利用拠点として特別経費によるプロジェクトや、看護学教育指導者研修、看護管理者研修、国公立大学病院副看護部長研修、看護学教育ワークショップといった研修事業に永年取り組んでおりますが、その他独自事業として、プロジェクト研究の実施、認定看護師教育課程（乳がん看護）の開講をしております。

●プロジェクト研究

プロジェクト研究は共同研究員と本センター教員が研究プロジェクトを形成し、看護学の実践的分野に関する調査研究を行うものです。研究期間は1年間で必要に応じて継続しています。平成27年度は、①新人看護師教育担当者育成プログラムの精練、②看護師長が取り組む組織変革プロジェクトを支援する研修プログラムの精練に関する研究、③看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究、④公的病院におけるELNEC教育プログラムの開発に取り組んでおります (<http://www.n.chiba-u.jp/center/original/index.html>)。

●認定看護師教育課程(乳がん看護)



当教育課程は、平成17年、千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センターに、我が国最初の乳がん看護認定看護師の教育機関として設置されました。5月に実施されました日本看護協会の認定看護師認定審査では22名が合格し、本学の教育課程を修了した256名が全国で乳がん看護認定看護師として活躍しています。

今年度は、24名の研修生を迎え、7月1日に開講式を行いました。12月23日(水)に、乳がん看護認定看護師資格取得を希望する看護師および医療機関の方々を対象に、認定看護師教育課程説明会を開催いたしました。平成28年度の研修生募集要項については、千葉大学大学院看護学研究科の乳がん看護認定看護師教育課程ホームページ (<http://www.n.chiba-u.jp/nintei/ninteitop.html>) をご参照ください。

看護学教育研究共同利用拠点

発行

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 URL: <http://www.n.chiba-u.jp/center/>

TEL: 043-226-2377・2378(看護学部事務部) E-mail: nursing-practice@office.chiba-u.jp